

令和6年度防衛大学校卒業式

久保 防衛大学校長式辞

本日、防衛大学校第69期本科生386名、理工学研究科及び総合安全保障研究科前期課程学生72名、後期課程学生12名が卒業の佳き日を迎えました。この中には9カ国30名の留学生も含まれています。防衛大学校の教職員を代表して、本日小原台を巣立つすべての卒業生に対して、心からお祝いを申し上げます。

本日の式典には、石破茂内閣総理大臣及び中谷元防衛大臣をはじめ、多数の方のご臨席を賜っています。ご多忙の中でのご来訪に衷心よりお礼申し上げます。さらに卒業生のご家族はもとより、防衛大学校ホームカミングデイの一環として、防大第24期卒業生の皆様にも多数、皆さんの卒業を祝うためご臨席いただいています。24期生の皆様、ご出席ありがとうございます。また何よりも長い間のご勤務ご奉仕、まことにご苦労様でした。

本科生の皆さん、防衛大学校を卒業することは一般大学よりはるかに難しいことでもあります。それだけに、卒業の喜びもひとしおではないかと拝察しています。

約5年前から始まった新型コロナウイルスの蔓延により、皆さんの学生生活の半分以上はその対応策の中で過ごさざるを得なくなりました。私自身、皆さんの着校と同時にここに赴任し、これまでの4年間を一緒に過ごしてまいりましたので、皆さんが経験した困難はよく理解できます。その中で皆さんは状況をよく理解し、協力してくれました。この点、心から敬意を表したいと思います。

研究科前期・後期卒業生の皆さん。研究科での研究は予想以上に厳しかったかもしれません。かつて執筆した卒業論文、あるいは修士論文をはるかに超える高い水準の論文執筆が求められる中、見事に修士あるいは博士の学位相当の研究を達成されました。ぜひともその成果を今後、日本の安全保障に、あるいは学術の発展に生かしていただければ幸いです。

留学生の皆さん。言葉や文化の異なる国に来て、特に本科生の場合は5年の長きに渡って防大で学ばれ、そして本日卒業となりました。その努力を高

く評価したいと思います。我が国と防大を信頼し、優秀な学生を長期に渡って預けてくださった関係各国政府のご英断にもここに感謝の気持ちを表したいと思います。また、ホームシックになりがちな留学生の面倒を文字通り日本におけるお父さん、お母さんとして、ボランティア活動の一環として見てくださった留学生協力家庭の皆様、献身的なご協力まことにありがとうございました。

陸海空各自衛隊の要員のみならず、研究科前期・後期の卒業生、さらには多数の留学生を送り出す本日の卒業式は、まさに世界に誇るべき統合型幹部自衛官養成機関としての防衛大学校の全体像を余すことなく示すものであると感じています。

卒業生の皆さんに、3点ほど短く申し上げます。

一つ。稀有な指導力を発揮し、学生間指導の在り方を大きく変えた実績について、69期生全て全員を高く評価したいと思います。容儀点検の簡略化、朝の清掃を1学年だけにやらせず4学年ともにするように変えたことなど、長らく不変、不易と思われていたことを変えました。リードした人だけでなく、フォローした人も含めて大きな拍手を送りたいと思います。

二つ。国民・家族・同胞を守るため、危険を顧みず職務を遂行することを誓った皆さんは、もっとも公益性の高い業務に従事し、まさに公務員の中の公務員としての職務を担うことになります。そのような誇りをぜひ持ち続けてください。

三つ。中曽根康弘元首相はこの卒業式場で、幹部自衛官を「永遠の求道者」と定義しました。「常に人格の陶冶に心がけ、上司の信頼と部下の尊敬を受けるに足る品格と特性を身に着けるよう不断の努力を傾注されたい」と述べられています。これは初代学校長の楨智雄先生が「まず人としての修養を積むこと」を重視されたことにも通じていると思います。ぜひ皆さんにも、これを実践していただきたいと思います。とりわけ、温かい心、熱い情熱、そして同僚・部下を抱擁する人間力の涵養が重要であります。同僚のため、特に部下のために、自分の知識や時間、そして労力を割いてあげられる寛大な気持ち、そして手柄は部下に渡し、自分は責任をとるといった大きな心を持った指導者になってください。基礎はこの4年間で作られました。皆さんの敵はむしろ慢心かもしれません。ぜひとも今後も謙虚に、そして指導教官

からの指図のない世界においても、自ら率先して学びと修練を続けて下さい。

なお、一昨年から、任官を辞退した方にも卒業式には出席してもらっています。防衛大学校の設立主旨からすれば、任官していただけないことは残念ではありますが、皆さんが立派に卒業要件を満たしていることには変わりありません。本校が、ここに集う諸君全員にとっての母校であることについても同様であります。全員が本校卒業生として、胸を張って旅立って欲しいと念じています。そして何よりも、卒業後も同期との絆を大事にしてください。

我が国を取り囲む安全保障環境は顕著に悪化しています。しばらくは辛抱の時期が続きそうです。しかしながら、希望を持ち続けることはできます。希望を持ち続けることができると感じられる最大の根拠は、まさに本日このキャンパスを飛び立つ皆さんの存在であります。日本に万が一のことがあった場合、その対応の中心となるのはここに集う皆さんです。国民の安全と生命を守るために奉仕する皆さんの生涯がやりがいと誇りに満ちたものになることを願っています。と同時に皆さん全員が、無事に職業的人生を全うされることも心よりお祈りしています。

最後になってしまいましたが、ご臨席いただいている卒業生のご家族ご親族の皆様、あらためて本日はまことにおめでとうございます。入学時には人によっては頼りない印象を与える学生諸君であったかもしれませんが、今は精進を重ね、見事防大を卒業しつつあります。本日はぜひとも「よく頑張ったね」と誉めてあげてください。

皆様からのこれまで防衛大学校に対していただいたご支援に感謝しつつ、今後とも防大、防衛省・自衛隊、就中本日の卒業生諸君に対して、変わらぬご支援をいただくことができればまことに幸甚であります。

以上を持ちまして、本日の式辞とさせていただきます。

令和7年3月22日

防衛大学校長 久保 文明